静岡県文化施設指定管理業務に関する外部評価委員会の概要及び評価結果（年度評価）

令和８年 10 月
静岡県スポーツ・文化観光部文化政策課

１　施設名及び指定管理者名

静岡県コンベンションアーツセンター　　公益財団法人静岡県文化財団

２　指定期間

令和４年４月１日～令和９年３月 31 日（５年間）

３　指定管理業務評価の流れ

（１）令和７年度の指定管理業務について、指定管理者が提案内容をどの程度実施したかを明確にするため、指定管理者による自己評価を行った。

（２）県では、自己評価と事業実績の内容確認を行うとともに、必要な事項について指定管理者へのヒアリングを行い、県としての評価を行った。

（３）自己評価と県評価の内容を客観的に評価して、今後の指定管理業務の改善につなげるため、外部委員からなる評価委員会を開催し、指定管理者及び県へのヒアリングをもとに評価を行った。（開催日　令和８年８月 28 日）

【外部委員】

氏　名	職　名
岩﨑 邦彦	静岡県立大学 経営情報学部 教授
梶田 美於	梶田美於バレエスタジオ 代表
小島 孝仁	株式会社 CSA 不動産 代表取締役社長
永井 聡子	静岡文化芸術大学 文化政策学部 教授
山本 雅弘	株式会社東平商会代表取締役

４　評価結果

（１）外部委員による評価

ア　総合評価（５段階評価）

令和７年度実績は、評価点「３．９」、「よく実施した」と判断した。

【評価点】

１．０～１．４	１．５～２．４	２．５～３．４	３．５～４．４	４．５～５．０
実施しなかった	不充分な実施だった	概ね実施した	よく実施した	大変よく実施した

イ　評価に関する意見

○　企画、広報、宣伝などにおけるマーケティング力を一層強化し、文化芸術に親しむ県民の裾野を広げてほしい。

　従来業務の質的・量的な向上にとどまらず、「文化芸術×地域資源」という掛け算の発想を生かし、新たな価値を創出してほしい。

　老朽化した設備の更新や施設の現状維持にとどまらず、より快適で利用しやすい空間の創出に向け、施設としての進化を続けてほしい。

○　コロナ以前のように出かける人が増えているので利用者のニーズに合わせた企画はもちろんのこと、県内のアーティストや企業等が気軽に使えるような宣伝をすることで益々活用が広がるのではないか。

○　オリジナル事業の継続性と、それがもたらすべき「目指す効果」を見据え、年度ごとのプログラム精査を徹底されたい。また、定型化しがちなワークショップやアウトリーチ活動の実施に終始するのではなく、その前提となる「骨太な企画立案」「魅力的なコンテンツの強化」、そして「効果的な情報発信」の構築を強く期待する。

（２）県評価の概要

ア　総評

（公財）静岡県文化財団は、指定管理業務を適正に実施したものと認められる。

イ　数値目標の達成状況

項　　目	Ｒ７計画	Ｒ７実績	達成
グランシップ企画事業鑑賞者数	100,000 人	94,642 人	△
グランシップ企画事業ネット配信閲覧回数	最終年度 150,000 回	702,860 回	○
グランシップ企画事業県民参加者延べ人数	5,000 人	3,257 人	×
グランシップ企画事業子ども学生鑑賞・参加者数	10,000 人	6,272 人	×
グランシップ企画事業再来場希望者率	90.0%	97.9%	○
グランシップ企画事業初体験者率	30.0%	40.3%	○
サポート企業・個人数	最終年度 500 団体・人	57	－
人材育成事業参加者数	40 人	117 人	○
文化芸術分野の一般県民鑑賞・参加貸館催事件数	110 件	130 件	○
コンベンションの開催件数	45 件	42 件	△

期間外予約の獲得件数	50 件	55 件	○
催事開催支援サービス取扱件数	2,000 件	1,654 件	△
催事利用者の来館者数	650,000 人	648,449 人	△
催事利用者以外の来館者数	27,000 人	128,924 人	○
レストラン・カフェ利用者数	23,000 人	14,751 人	×
施設稼働率	80.0%	76.6%	△
施設管理瑕疵に起因する事故	0 件	0 件	○
総エネルギー消費量	▲1.0%	▲5.5%	○
貸館利用者の満足度	86.0%	88.2%	○

※ 「○」目標達成、「△」目標達成率 90%以上、「×」目標達成率 90%未満

〔全　　般〕

・数値目標全体としては、19 項目中 10 項目で目標を達成した。目標には届かなかったが「企画事業鑑賞者数」「催事利用者の来館者数」は、昨年度より大幅に増加し、目標に迫る実績となった。

・レストラン利用者数は昨年度より増加した。さらに目標に近づくことを期待したい。

ウ　実施業務別評価

（ア）グランシップ企画事業

多彩な文化芸術分野での鑑賞・参加など様々な形での体験

・子ども・子育て世代への支援では、「グランシップサマーじどうかん」の実施など、安全・安心に過ごせる居場所づくりにも取り組んでいる。また、県内全域でアウトリーチ事業の実施、ひとり親家庭の公演招待を行うなど、多くの子どもたちに文化芸術に触れる貴重な機会を提供した。

・音楽文化等の普及・振興では、本県出身アーティストによる公演を積極的に実施し、観客の満足度も高かった。今後もトレンドやニーズを調査し、企画・広報を工夫して、音楽文化の普及拡大に取り組んでいただきたい。

・伝統芸能の継承では、大ヒット映画で取り上げられていた演目を上演するなど、話題性のある企画を提供し、若い世代にも分かりやすく楽しめる工夫をした鑑賞機会を提供した。また、多言語字幕サポートサービスを取り入れるなど、積極的に新たな取組をされている。

・文芸・美術等の振興は「しずおか連詩の会」において、詩人以外にも多彩な表現者が集い、若い世代の来場者が増え、新しい連詩の形を提示するなどの取組が評価できる。

（イ）グランシップ企画事業を支える運営体制

県民参加による運営

・サポーター制度は、前年度の改善を受け登録者数が増加した。グランシップの活動を支え、県民が自主的に参加・参画できる場の提供に引き続き努めていただきたい。

広報・宣伝

・広報・宣伝は、公演ごとにターゲットにあわせた広報媒体を活用し、さらに多くの方の目や耳に届き､集客に繋げられるよう広報効果の検証やより効果的な情報発信の工夫をされたい。

新しい支援を得る取り組み

・子どものための取組に対し企業協賛を得る「こどもたちのための文化芸術プロジェクト」は、今後も継続し、多くの協賛をいただけるよう努められたい。

（ウ）施設の利用に関する業務

学術・文化芸術活動の場づくり

・大ホールの工事による休館期間があったが、全国規模の学術会議の誘致や開催支援に取り組み施設機能を発揮した。引き続き大規模コンベンションを誘致できるよう努めていただきたい。

国内外との交流促進を図る活動の支援

・関係機関と連携し、情報共有や意見交換を行うなど、誘致・開催支援を積極的に行い、交流人口の拡大などにも寄与されている。

デジタル技術等を活用した顧客サービスの向上

・デジタル化に対応した顧客サービスに努められている。今後も利用者へのサービスの充実に努めていただきたい。

（エ）施設の維持管理に関する業務

安心・安全・快適な施設

・修繕必要箇所の増加に加え物価高騰が進む中で、迅速に適切に施設の管理や運営をされている。引き続き県と連携し、安心・安全な施設管理に努めていただきたい。

環境負荷の低減に配慮した施設運営

・環境負荷の低減に配慮しながらコスト削減を進めるなど、省エネを推進されている。引き続き、関係者と連携して環境に配慮した施設運営に努めていただきたい。

社会のデジタル環境に対応できる施設管理

・オンライン予約が周知され、多くの利用者に活用されている。またキャッシュレス決済も増加しており利用者の利便性向上とともに業務効率化が図られている。

（オ）その他運営に関する業務

賑わいを生みだす取組、施設の有効活用

・広場はイベントの開催により多くの来館者を呼び込み、施設の魅力向上とにぎわいの創出に努めている。今後も、地域と連携した取組などを期待する。

その他運営に関する業務

・利用者ニーズに応じた柔軟な対応やレストラン等と連携したサービス提供に努め、利用者満足度の向上が図られている。

・レストランの利用者数は昨年度に比べ増加しており、引き続き目標に近づけるよう、多くのお客様に来ていただける工夫が必要。

（カ）運営体制及び組織

組織

・状況に応じた組織体制の見直しを行い、円滑な施設運営体制を確保している。利用者が安全に施設を利用できるよう、引き続き体制の強化に取り組んでいただきたい。

働きやすい職場づくり

・多様な働き方の推進と職場環境の改善に取り組んでいる。人材確保・定着につながる職場環境づくりに期待したい。

リスクマネジメント

・消防計画の見直しや実践的な防災訓練を行うなど危機管理体制の強化に取り組み、万が一の際の対応を確認していることは利用者の安全につながる。引き続き取り組んでいただきたい。

安定した財務管理と適切なコスト管理

・事業の財源確保のため、各種助成制度の活用や企業からの協賛金を得るなど、引き続き取組まれたい。

・人件費や物価高騰により厳しい状況の中、３年連続して黒字となったことは経費削減等努力の賜物であり評価できる。